

## 平成 30 年度第 1 回豊岡市環境審議会 会議録

日時：平成 30 年 8 月 6 日（月）午後 1 時 30 分～3 時 40 分

会場：豊岡市役所 5 階 会議室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、土川忠浩、内海京子、岡崎典子、菅村定昌、寺田正文  
太田垣秀典

欠席した委員：日下部昌男、和田芳文、橋本道江、佐伯雅代、友田 達也、毛戸 勝、瀧本晋一

事務局：コウノトリ共生部コウノトリ共生課

課長 宮下泰尚、主幹兼係長 成田和博、主事 戸田早苗

### 1 開会（司会：成田主幹）

- ・会議の公開、会議概要の公表を確認

### 2 あいさつ

山室会長より挨拶

### 3 協議（議長：山室会長）

【会長】次第に基づき、協議に入る。協議事項 1、平成 29 年度環境報告書の作成について、事務局から説明。

【事務局】平成 29 年度の環境報告書については、第 2 次環境基本計画に沿い、新たな報告書を作成することとなっている。今回は基本的な考え方をお諮りし、次回の環境審議会で中身の協議をいただきたいと考えている。では、環境基本計画の基本的な考え方説明をさせていただきたいと思う。

【事務局】第 2 次豊岡市環境基本計画の内容と第 1 次豊岡市環境基本計画の目標とする姿を併記し、比較できる資料を皆さんにお配りさせていただいている。

（1～10 の比較の説明）

《目標像①「手入れの行き届いた豊かな森がきれいな空気や水を育んでいます」》

《目標像②「里山が様々に利用され、関わる人が増えています」》

【会長】第 2 次計画では山にかかわる項目を「奥山」と「里山」の二つ設けたため、指標を加えたり、分けたりということが必要になる。①を「奥山」のイメージとして植樹数や苗木の提供数という新しい指標を考えた。②が「里山」で、第 1 次計画の目標像 01 に近い形になる。有害獣の対応をこちらに移して、森林ツーリズムという指標を新しく加えようということ。①と②を両方見ながら指標のアイデアを出していただければと思う。

【委員】「里山」と言っているが、間伐の状況や間伐材によるものについては本来「里山」に限定される

ものではないのでは。

【委員】 具体イメージや、実現するための主な取組みなどは今回も載せるのか。

【委員】 第2次計画の9ページ10ページに目標像とその説明が6行程度書いてあるが、そのまま載せるのは分量が多い。もう少し抜粋して具体イメージとして記載したいと考えている。

【事務局】 できるだけ的を射た表現で記載させていただきたい。

【委員】 広葉樹を植えたから環境が良くなるということではない。針葉樹と広葉樹のバランスも大事で、針葉樹の間伐し有能な材になるよう保育をしっかりとやることが大前提。きれいに間伐をして根はりのいい山にすれば災害も減る。また、豊岡市にはバイオマス発電所がなく、ペレットストーブやボイラーを指標にしなくてはいけない。一昨年末に生野に、山の不用な林材を燃やして発電するバイオマス発電所ができた。兵庫県には3カ所ほど発電所ができていて、(豊岡は)生野の発電所に間伐材を出している。これからはペレットストーブ・ボイラーの燃料ということだけでなく、発電所に林材を出すことも考えていかないといけない。

【事務局】 ペレットだけが使い道ではなく、生野の発電所に除間伐材を出した量をデータとして見せて、発電にも使われているということも載せたほうが良いという意見か。

【委員】 ペレットの原材料よりも生野に出す方が多く、発電による使用は間違いなく増える。

【委員】 豊岡産ペレットの製造量と目標値1,500トンが記載されたグラフは、目標に届かないということで毎回議論になっていた。これまでの目標以外の別の指標を立てた方が良いということか。

【委員】 しっかり間伐をすれば健全な山ができるという前提ならば、健全な山のためには、ペレットだけでなく、発電材として市外に出して活用するという別の使い道もあるということ。

【事務局】 今の話は針葉樹の間伐材使用の事だが、広葉樹の植樹について数値を見せていこうと思った場合に、広葉樹の使い道も押さえておかないといけないということが出てくるのでは。

【委員】 データを細かく求めると際限がない。

【委員】 有害獣駆除は、たぶん狩猟の部分は食肉としての利用ができていけど、有害獣のほうは全部廃棄だと思う。豊かに利用しているかといったら全く利用していない。

【委員】 有害獣も1年間で6,000頭、7,000頭と獲るのは大変なこと。有害獣の被害はほとんどが田んぼや畑だが、山も大変。新植してもシカが食べてしまう。広大な山を囲って、シカが入らないようにするが、雪が降ると柵が倒れる。そこから入って食べてしまい植樹してもなかなか育たない現状。田畑の農作物だけではなく、山の生態系も守ってほしい。駆除は引き続きがんばってほしい。

【委員】 毎年、有害獣への対応はかなり議論になる。駆除数、補助延長と整備面積でこの先10年向かうのか。取組みが進んでいるまたは停滞していると分かるような指標もあった方が良いのでは。

【委員】 県には農林業の被害額というのが指標としてある。森林衰退度は毎年調査しており、今若干いい方向に向いて緑も増えていることは間違いない。森林緑地センターにはそういうデータがある。

【委員】 頑張った成果として、農業の被害額が減ってきたというデータが出れば良いが、前段として、いくら頑張っても食べられるから農業を辞めてしまうということが全然反映されない。そ

こが一番問題になっていると思う。

【会長】委員の言われたようなことに対する補足や対応、また森林衰退度や被害額についても、次回少し調べて出していただければと思う。今、森林ツーリズムや竹伐採ボランティア数が新しい指標で挙がっているが、これ以外に指標案があれば。

【委員】目標像②で、食べられる山菜やキノコの知識を持った市民が増えていると書いてあるが、山菜やキノコなどの出荷量のデータはあるのか。

【委員】たぶんないのでは。委員の意見でいうと、例えば新しく政策的にキノコについての市民講座をやる、講座とセットで山に入るなど。講座をやっていくという提案でもいいと思うのだが。

【委員】山菜を使った料理や献立、こういう郷土料理があるなど、そういったトピックスでもいいかと。

【委員】私達が目にするのは、知らない人が勝手に採ったら危ないからやめましょうというのが多い。

【委員】こういう料理やイベントがあると紹介するなど。そういう発想が欲しい。

【委員】市ではないが、神鍋で野外体験ができる民間施設ができたり、山を利用して自然を知ろうという動きがある。そういう流れがあることだけは良い。

【委員】民間の事業として、運営されているのか。

【委員】そのとおり。それで運営できるのだったら立派なこと。神鍋の学校は神鍋だけでなく海にも遊びに行く。そんなのがあちこちできている。実は二年続けて神鍋火口のところの火入れが行われていない。去年は天候不良で行われなかったのだが、今年は特に理由を聞いていない。あそこはたくさんワラビがでる。だから、みんながワラビ取りに行くのであれば、地元も火入れをしようかなと思ってくれる。ただ、事故が心配。

【委員】栃もちなどいっぱい売っているが、栃の実の収穫量はでないのか。

【委員】よその栃の実を使っているのか。海外もあるのか。

【委員】海外ではフランス産があった。最近シカ、イノシシに食べられてしまい貴重品になっている。米より高い。

【委員】シカが食べているから採れないし、採りに行ってもほとんどない。

【委員】いろいろなところでハチクやマチクなど、今までみんなが食べなかったものを売るようになってきている。たじまんとか。

【事務局】農協に依頼すればそういったデータはあるのでは。今まで扱っていなかったハチクやマチクも直売所で扱われるようになり、山の幸をしっかりといただいているということをトピックスで紹介するようにすれば良いのでは。記載のデータは、市役所の業務分が基本だが、例えば森林動物研究所のデータや神鍋自然学校さんの取組みなどをトピックスで紹介する形で記載することは可能。

【委員】円山川のアユがカワウに全部食べられてしまっている。トピックスで載せてはどうか。

【事務局】円山川漁協と、巢にドライアイスを入れるなど、カワウの駆除を一緒に行っている。

### 《目標像③「使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています」》

【会長】指標について何か新しいアイデアはないか。

【委員】学校給食の米飯回数は、既に5回になっている。野菜の利用率の説明で、米飯は何年度から

週5回になっているとかの表記を入れるなどすれば、グラフは必要ないのでは。

【委員】米飯は減農薬。無農薬の市町村もすでに現れているので負けないように。あと、トピックスでもいいので、野菜の取組みに焦点を当ててほしい。コウノトリ育む農法から米ばかりに焦点がいったしまった。野菜もたくさんの若者が頑張っている。野菜の栽培は水稻より難しい。水稻も山田で食味全国一位を獲るなど頑張っているが、八代オクラや日高の赤崎、十戸でも、頑張っている人がいる。新たな指標として、野菜の取組みを拾ってほしい。野菜はたくさん人数があってもおもしろい。

#### 《目標像④「あちこちの川や海辺で子どもたちの楽しむ声が聞こえてきます」》

【会長】指標として、新しく漁礁設置数が挙がっている。それ以外に何かないか。

【事務局】中竹野小学校がいかだ下りをしている。今は大人が子どもに川に行くなという状況もあり、川を使う活動は、グループや団体でないと難しい。実際に何年か続けてやっているイベントをトピックスとして紹介する。漁礁は毎年コンスタントに沈めている。

【委員】蓼川堰という日本一の魚道がある。円山川の自然再生を進めていることもあり、国交省がデータを持っている。ずっとモニタリングをしているので、そういうデータを出すことは非常に有効だと思う。川が死にかけているという現状がわかるので、「もっとやらなくてはいけない」という一つのインパクトにはなると思う。また、今アユが全然取れないのは、おそらく秋に稚魚が川から海に降りる時の水温が高すぎるからそこで死んでいるという仮説がある。地球温暖化の影響だろう。

【委員】カワウより温暖化なのか。

【委員】相乗効果。とどめをさすのはたぶんカワウだと思う。

【会長】ほかはないか。

【委員】NPOなどが、毎年定期的に海の中の掃除をしている。シュノーケルセンターや大浦や竹野浜だけか。

【事務局】気比の浜でも港中学校が中心でやっている。

【委員】民間が自らやっている、そういうものをみんなで増やそうというのが欲しい。

#### 《目標像⑤「コウノトリも住める豊かな生態系がバランスよく保たれています」》

【会長】新しい指標として、湿地管理ボランティア数が挙がっているが、それ以外に何か新しい考えがあれば。

【委員】このコウノトリの状況は、豊岡ではなくて、全国に居るやつか。

【委員】そのとおり。野外個体数ということ。

【委員】この指標はあってもいいだろうが、全国に140羽いるということで、豊岡にいるわけではない。豊岡は飽和状態だからこれからはずっと一定数だろう。

【委員】外来種の駆除のことなど、生態系のバランスみたいなものもあればいいが。

#### 《目標像⑥「様々な世代の人々が地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています」》

【会長】⑥の目標像は、毎年評価に苦勞する。なかなか良い指標が無く頭を悩ませている項目。民間

の但馬民族芸能応援隊が平成 26 年度に作られた資料を毎年そのまま転載している。何かいいアイデアがあればお願いしたい。

【委員】豊岡市に民具資料館みたいな施設はあるのか。

【委員】歴史資料館なら出石資料館というのがある。

【事務局】但馬国府・国分寺館は、今は歴史博物館となった。国分寺に特化している部分はあるだろうが。

【委員】少し趣旨が違ってしまうかもしれないが、そういう資料館の来場者数とかが分かれば。

【事務局】平成 29 年度に特化したトピックスではないが、但馬国府・国分寺館では土器や埴輪、勾玉を作ったりする体験ができる。

【委員】各コミュニティセンターでは、そば作りなど世代間交流やさまざまな行事をしている。

【委員】この季節、この時期（例えば祭りの時期など）にはこれがものすごく売れるというようなものはあるのか。ちょっと直球ではないが、出荷額などが統計的に使えれば。

【委員】そういう食文化みたいなのも併せて紹介すると面白い。

【委員】食文化を残していく。

【委員】コウノトリ文化館では、職員が公民館の講座などで味噌や醤油づくりを勉強している。数年前までは買っていたが、今は全部自分で作った味噌・醤油でイベントの鍋を作っている。せめて味噌醤油など自分で作れる人がもっと増えれば。また、畑上に巨木を見に行った時に、シカの食害によりクロモジが一本もなかった。クロモジがないと餅花が作れない。シカを何とかしてほしいと。

【委員】味噌醤油のコンテストがあると面白い。

【委員】味噌づくりは結構小学校でもやっていたが、先生が受け継いでくれないと、続かない。

【委員】そのあたりが広がると良い。

【委員】味噌づくりの大豆はくずでいいので消費が増える。豊岡のくずの大豆をいただいて、学校に行って教えていたけどなかなか思いが伝わらない。

【委員】地域の祭りや行事でいえば、小・中学校で、体育祭の時に地域の芸能の踊りを一生懸命練習して披露していた。日高だとある時期の子どもはたいていほとんど全員が「そうだろ節」が踊れるようになっていた。今もやっているのか。

【事務局】その時代は、おそらく学校の先生で、踊れる人がおられた。

【事務局】今は自分たちでダンスを考えて披露するスタイルになっている。

【委員】創作ダンスか。

【委員】学習指導要領の違いだ。

【委員】地域の子ども会でも現在は指導者がいない。うちの集落では毎年盆に地藏盆をするが、盆踊りも指導者がいなくなっている。

【会長】基礎的なデータだが、文化財室が昨年か一昨年に民俗調査を行い、報告書を上げている。それを一度手に入れてほしい。今の但馬の民俗芸能の資料よりは、そちらの方がいいとは思う。それを次回までにそろえていただき、使えそうなところは参考にしたい。

《目標像⑦「子どもたちが身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています」》

【会長】⑦の目標像はこれまでにない新しい項目で、以前は道草のイメージで作っていた目標像 08 をこういう形に変えた。何か新しい指標のアイデアがないか。

【委員】何回も言っているが、いずし古代学習館の「かかし倶楽部」の活動も掲載できないか。

【事務局】あと平成 29 年度からふるさと学習が全小・中学校で始まっている。トピックスで拾えるデータがあれば拾いたい。

#### 《目標像⑧「市民みんながごみの減量を実践し、一人当たりの排出量が徐々に減っています」》

【会長】⑧の目標像も新しい指標がない。何かアイデアがないか。

【委員】最近、海の中のマイクロプラスチックの問題が報道されている。データはないと思うが。

【委員】廃食油で作られたバイオディーゼル燃料をディーゼル車で使用とあるが、バイオディーゼルの作るような会社が市内にあるのか。

【事務局】ある。しっかりと廃油が集まり、使い先があれば、循環というのはできるのではと思う。

【会長】トピックスでもいいので他にないか。

【委員】電気式生ごみ処理機設置の数とは、ここに掲載している理由はなにか。

【事務局】購入に際しての補助金をだしている。

【委員】毎年 20～30 件程度ある。

【委員】減っている。

#### 《目標像⑨「市民みんなが楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています」》

【会長】新しい指標として、ボイラーの設置補助件数を候補としてあげている。他に、何か指標やデータのいいアイデアがないか。

【委員】住宅用のボイラーとは給湯用のボイラーのことか。

【事務局】住宅用のものもあるが、どちらかといえば農業用施設、例えばハウスのボイラー。

【委員】住宅用は給湯用のもの。お湯を沸かしてタンクに溜める。薪だとストックする場所が必要。制度的に進まないかも。

【事務局】集落にある防犯灯の LED 化を進めている。設置に際しての補助金も出している。これには、市が設置している太陽光発電所の収益を充てている。

【委員】住宅太陽光発電設置は、平成 19 年から制度が始まっているが、設置して 10 年経過することで関電が買電しなくなる時期が来るのではないか。その影響が出てくるのでは。

【事務局】先ほどの LED の街路灯の補助と同様に太陽光パネル設置にも太陽光発電所の収益が財源としてあっている。ペレット、薪のストーブ、ボイラー助成も同様だ。

#### 《目標像⑩「環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています」》

【会長】新しい指標としては、環境経済の活性化ということで環境経済認定事業数が挙がっている。これ以外にも何かいいアイデアがないか。

【委員】環境経済認定事業というのは、エコ事業所宣言と一緒にのものか。

【事務局】違う。

- 【委員】エコ事業所宣言は⑨と⑩どちらがいいのか。
- 【事務局】環境経済認定事業とは、例えばコウノトリ育むお米の米粉を使ってバウムクーヘンを作る、地元産の市場に出ないような魚を使って料理を出しているなど。
- 【委員】普通のお店にそういう表示があるのか。
- 【事務局】そのあたりが、制度としてうまく回っていないと聞いている。「環境経済認定事業者です」で終わり、インセンティブがつくわけでもない。そこは担当課としても、認定を受けた側としてもどうしようかなという話になっている。現在、環境認定事業者で組織化して、うまく回していこうという動きになっている。例えば、緑提灯みたいな看板のようなものを掲げて周知を図るなど。
- 【委員】その商品を東京のアンテナショップで売る、ホームページで宣伝してあげるなどインセンティブをつけたらどうか。
- 【委員】①で有害獣の対応があったが、豊岡市ではシカなどを獲った時の助成金はあるのか。
- 【事務局】ある。
- 【委員】助成額を増やすなどして、更に対策することはできないのか。一番に山を再生することを考えたら、川も海も全部が良くなるのではないかと思う。駆除でもハンターを増やす、駆除する人の教育、功績を称えるといった、頑張っている人たちを褒めるようなことが必要ではないか。
- 【事務局】鉄砲も罠も猟をするには資格が必要だが、罠の免許取得に助成を出している。あとシカー頭当たりの報奨金も出している。
- 【委員】何年か前に値上がりしているはず。
- 【委員】そのシカの肉を食べるなど。
- 【委員】ジビエ祭りか何か出来ればいいが。
- 【委員】確かシカ料理を作っているところがあったはずだが。
- 【委員】神鍋で燻製をしている。
- 【委員】シカ肉を食べるところを作ればいい。
- 【事務局】小規模の加工所を作る場合、助成がある。ただ、シカ肉を食べる食文化がない。
- 【委員】山の奥でシカを捕っても、持って降りられない。血抜きをしっかりと食べられない。結構そこが難しいため、里に近いところで罠で獲ってということになる。
- 【委員】天敵はいないのか。
- 【委員】昔から人間が天敵。猟で絶滅寸前までいったがその後保護獣になり、メスを撃たなくなった。
- 【委員】食べていたということか。
- 【委員】そうだろう。どう考えてもそうとしか考えられない。
- 【会長】次に、データの見せ方やデータの掲載方法について事務局から説明する。
- 【事務局】グラフ等の掲載方法だが、いただいた意見を参考に調整をし、これまで同様目標①～⑩のところで、掲載していきたいと考えている。データだが、第1次基本計画で掲載していたデータが10年分ある。第2次計画では1年分増えるが、グラフで11年分全てを見せるのか。事務局としては

- ①第1次計画を含めた11年分のデータの掲載
  - ②第1次計画の後期5年間と第2次計画の1年目
  - ③第1次計画の初年度と第1次計画の10年目（最終年度）と第2次計画の1年目
  - ④第1次計画の初年度と第1次計画の後期5年間と第2次計画の1年目
- この①～④までの4パターンで考えている。いかがか。

【委員】データが増えるということは、また一個列が増えるのか。

【事務局】列が増えていく。

【委員】常に10年分とする方法はどうか。最初は一番古いデータは残して、前から削っていくとか、統計学の手法としてその手法が良いのかはわからないが。

【事務局】報告書であって統計書ではない。その統計の分は裏の数値のほうでカバーできるのかなと思っている。今回提案としてはこの4パターン。もう一つ、資料編という意味合いでこれまでから掲載している市の取組み実績だが、これも11年分を掲載しようと思えば小さな表になる。A4見開き(A3縦相当)で表を掲載させていただこうと思う。

【委員】報告書の後ろに記載するデータは、ずっと増やしていくというのもどうなのか。歴史がどんどん増えれば、掲載は困難になる。

【委員】資料を重視するのか、施策としての効果をポイントとしてとらえて重視するか、そこが大事なところ。例えば、農業では今年から米の生産調整がなくなった。規制がなくなった…というようなポイント、歴史の分岐点みたいなものがある。基本は基本で良いが、一番古いものを一年ずつ除いていくと歴史が分からなくなってしまう。特にこの年だけは忘れてはいけないという年度は載せないと資料としての意味が分からなくなってしまう。

【委員】項目によって違うということか。

【事務局】ちなみに、平成19年に最初の環境報告書を作った時は、データの蓄積がなかったので、トピックス中心に掲載していた。中にはデータをグラフで見せる手法をとったものもあった。

【委員】環境審議会は環境づくりをもっとしっかりやるために、環境報告書を誰に見てもらおうのかしっかり考えていかないといけない。ただ10年分の数字を並べるというのは違うのではないか。データを生かすためにはトピックスなり、大事な年というものに触れないといけないと思う。一元化するより、項目によって多少アレンジする方が良いと思う。

【事務局】データ項目を決めてしまうのではなく、今年はこのデータという風に、世の中の動きが変わったという場合には、別の項目が入り、それを紹介するというイメージか。

【委員】全部をそのようにという意味ではないが、特に大事なグラフの部分については、見て面白いというのが良い。

【会長】いいアイデアを出していただいた。予定していた協議事項は以上。

#### 4 その他（事務局）

- ・委員の任期が8月24日で終了する。皆さまには引き続き委員もよろしくお願ひしたいと考えている。企業、団体等から選出の委員については、所属される企業、団体等にむけ選出依頼を行う予定。



5 閉会（雀部副会長）